今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

今月の特選句

2011年6月号

春の土馬の小便突き刺さる　村上美和

「春」という美しい季語に、「馬の小便」という下品で裏切り、更に
「突き刺さる」という乱暴で上塗りをした。しかし、無邪気な馬の

エスピーの桜にさへも微笑まず　麻生やよひ

エスピーは要人警護のセキュリティーポリスのこと。「緊張感」と「桜」の取り合せ。「ヒマなんだから桜愛でるぐらいしては如何かと」と言いたい作者。。

クールビズ水着の秘書が官邸に　横山喜三郎

確かに、菅総理の表情が最近柔らかくなった。某副大臣が「官邸が率先して省電力を」と提言。判断力の鈍っている総理が真に受けたらしい。

すぐ集ふ昭和の不良花筵　清水呑舟

家では奥様から「粗大ゴミ」扱いをされて、仕方なく昔の不良仲間に声をかけたのです。同僚相憐むとか。仲間と奥様を罵る声が聞こえます。。

春ショール居座りのよきいかり肩　前川敏夫

いかり肩の人には、春ショールが似合わないという前提を認識の上、滑稽を味わいたい。擬人化された春ショールは、ずり落ちないことだけ考える。

今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

ハート形ペンペン草のバチならす　工藤泰子
・・・「そよ」という名か弾き手の風は

恋の夜蝶の吐息を見のがさず　澤田蔦恵
・・・蝶の気分なりたる作者

朝寝してよこしまなこと考へる　白井道義
・・・起きた途端にマジメ人間

本物のビールを奢る誕生日　有吉堅二
・・・やつぱり貴方私を好きね

喧嘩凧どう眺めても凧の恋　百千草
・・・恋すればこそ喧嘩もすなむ

焼鳥賊のひとつ覚えの逆あがり　柳　紅生
・・・焼餅もまた膨るるだけよ

これはまたいい脱っぷり蛇の衣　伊地知寛
・・・痩身抜くに音も立てざり

巻返す力緩びて蝮老ゆ　宇井偉郎
・・・まさか飼つてるわけじゃないよね

片栗のイナバウアーの花の反り　笠　政人
・・・舞ひくる蝶は金メダル色

壷焼の蓋を死守する馬鹿力　田村米生
・・・見えない敵に必死の栄螺

ふくしまがフクシマとなり田植消ゆ　丹治芳樹
・・・不苦死魔の字も浮かんで来たり

スケッチにうろこ省略こいのぼり　藤森荘吉
・・・お刺身にでもするつもりだろ

アラフォーが子になりに来る子供の日　前　九疑
・・・母の日が来りゃ逆に甘える

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の滑稽句

	花粉飛ぶ季もこれまで四月尽	青山桂一
【佳作】	春愁や草食系の手芸好き	青山桂一
	どの花も皺の目立ちて春の果て	青山桂一
	この星を逃れられなきイヌフグリ	秋月裕子
	東北の脛が細るよ春の月	秋月裕子
【佳作】	原発や牛馬さみしも霜くすべ	秋月裕子
	新社員上司は部活の鬼先輩	麻生やよひ
	熟考の嘘を一笑万愚節	麻生やよひ
	キッチンで缶ビールぷしゅっ妻の乱	足立淑子
	存在を主張している青蛙	足立淑子
【佳作】	どうしても逢いたいと言う梅雨の蝶	足立淑子
	そら豆や祖父はいつもの長話	有冨洋二
【佳作】	母の日を一日早める宅配便	有冨洋二
	ウエストのどんどん育ち更衣	有冨洋二
	蜘蛛の囲の初の獲物は人の顔	有吉堅二
	あめんぼに表面張力教えられ	有吉堅二
	老妻病み癇癪爺も春愁ふ	安藤淑子
【佳作】	母の日は諦め八分期待二分	安藤淑子
	カーネーション一輪満たす母心	安藤淑子
	筍が集まつて来し通し土間	飯塚ひろし
	揺れ激し縁切寺の夕牡丹	飯塚ひろし
【佳作】	豆飯や家を捨てる気更になし	飯塚ひろし
【佳作】	蛤の使い分けたる二枚舌	井口夏子
	恋猫の恋の関所やそのうなり	井口夏子
	虎杖を貰ったもののどうしょふ	井口夏子
【佳作】	春めくや雄犬ドンファン三毛カルメン	池田亮二
	震度五弱泰然自若と腰抜かし	池田亮二
	万緑や自粛ムードの解け薬	石川節子
	朝昼晩根津に笑ひしツツジ族	石川節子
【佳作】	魂の休み処か雲の峰	石川節子
	水無月の水もてあます原発炉	伊地知寛
	磯釣りが自慢の主鮎の宿	伊地知寛
	右腕の震へをさまる冷酒かな	伊藤和義
【佳作】	絡みつく春画の蛸となりし夏	伊藤和義
	「空室」のネオンもとむる夏の夜	伊藤和義
【佳作】	桜祭花の数ほど募金箱	伊藤浩睦
	潅仏会知らぬが仏活断層	伊藤浩睦
	復活祭信じる者は救はれず	伊藤浩睦
	一日の予定は白紙たんぽぽ黄	稲沢進一
	悟るとは動かざる山座禅草	稲沢進一
【佳作】	結局は骨を残して干鰈	稲沢進一
	参道の草餅試食行き帰り	井野ひろみ
【佳作】	新社員一年早し新が取れ	井野ひろみ
	ばらのアーチくぐる蜂蝶もくぐりける	今城夏枝
	筍や地球の皮を突き破る	今城夏枝
【佳作】	突然の雨ぼうたんの無抵抗	今城夏枝
	警策を背（そびら）に受けて座禅草	宇井偉郎
	停電の三十五階汗滂沱	宇井偉郎
	人柄も社風も見えて花見宴	宇佐美徹郎
	恋烏嗄声にも艶ありぬ	宇佐美徹郎

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

	忘れ潮蛸の寝てゐる須磨の浦	氏家頼一
【佳作】	輪の中は俺が陣地よ水馬	氏家頼一
	牛蛙コントラバスのつらがまへ	氏家頼一
【佳作】	レモン水しあはせに似てふしあはせ	越前春生
	人の死はやがて吾がこと亀の鳴く	越前春生
	武者人形飾る女系の旧家かな	越前春生
【佳作】	たんぽぽや瓦礫の街のど根性	奥脇弘久
	鳥雲にテラスにひとり待ち惚け	奥脇弘久
	八分咲き今再会の花見どき	奥脇弘久
	春の蚊や水屋の戸よりこんばんは	笠　政人
	しくじりと蝿取蜘蛛や四股をふむ	笠　政人
	げんげ田のげんげを揺らし仔犬かな	加藤澄子
【佳作】	席ゆづる声の大きく新学期	加藤澄子
	パソコンの画面の桜散りにけり	加藤澄子
	嫁にやや高き服買ふ万愚節	加藤　賢
	花の闇瞑ればいのち危ふかり	加藤　賢
【佳作】	娑婆っ気の抜けぬ閑居に桜咲く	加藤　賢
	皆で待つ鶴の一声目借時	金澤　健
	或る者は不承不承と鳥帰る	金澤　健
【佳作】	ぜんまいの揺れに酔眼逆らはず	金澤　健
【佳作】	被災地に古巣をさがすつばくらめ	川島智子
	汚染雨や傘さしかけて笑む牡丹	川島智子
	風吸うて腹一杯の鯉幟	川島智子
	髪洗ふ禿頭なれば何といふ	川高郷之助
	餡蜜を二つ注文婆一人	川高郷之助
【佳作】	誉めたれば切つてくれたり婆の薔薇	川高郷之助
	夜桜や人に食欲独占欲	久我正明
	恋猫や足は二本に手は二本	久我正明
【佳作】	恋猫や姫の悲鳴の秘めの事	久我正明
	息継ぎをして風船をふくらます	工藤泰子
	ハヤブサの宙より戻り揚雲雀	工藤泰子
	放射能含まぬ黄砂まだましよ	倉方　稔
	羅や見え透く嘘と知りつつも	倉方　稔
【佳作】	あれこれと捨てて身軽や更衣	倉方　稔
【佳作】	残雪を見れば放尿したくなり	黒田忠一
	咲く花の蔭に散る花選挙終ふ	黒田忠一
	物件になんだかんだと言ふ寄居虫	小林英昭
【佳作】	うまさうな尻と叩かれ春キャベツ	小林英昭
	初蝶の父兄同伴やや過保護	小林英昭
	日本史に必ず載せる大震災	齋藤八兵衛
	復興を任せてみたい伊達直人	齋藤八兵衛
【佳作】	原発の安全神話画いた餅	齋藤八兵衛
【佳作】	春灯下坐ればみんな携帯党	酒井鹿洋
	携帯にうつつを抜かし四月尽	酒井鹿洋
	携帯に一喜一憂四月馬鹿	酒井鹿洋
	政治ごっこいつまで続く目借時	坂本牧子
	背筋鍛えるイナバウアーの春うらら	坂本牧子
【佳作】	雨催ひ座敷に寝たる鯉幟	桜井宇久夫
	柏餅一つ我慢の義援金	桜井宇久夫
	見放題タダと五月の国技館	桜井宇久夫
	おら家へこいこい嫁と潮まねき	佐藤古城
	天道へ御居処くらべの潮干狩	佐藤古城
【佳作】	治聾酒にぴくりと耳朶が応へけり	佐藤古城
	おちんちん欲しがる女のこ草端午	佐藤古城
【佳作】	どうしても解せぬ一つに海鼠かな	佐藤古城
	尿かけて蚯蚓なかせる男の児かな	佐藤古城
【佳作】	鯉のぼり恋の風吸い游いでる	佐藤義子
	おにぎりをパクつく口に花吹雪	佐藤義子
	何事もなかったように春爛漫	佐藤義子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

	時鳥卯の花なくて電柱に	佐野萬里子
	蝙蝠の声なく飛ぶや川の土堤	佐野萬里子
【佳作】	大楠は艶ある葉にて更衣	佐野萬里子
	窓開けてあり囀に目醒むれば	猿渡　仁
【佳作】	白玉の割れて牡丹の火焔かな	猿渡　仁
	春光や鴉声に混じる濃紫	猿渡　仁
	一発の夫のジェラシー春の雷	澤田蔦恵
	駄菓子屋の飴は十円のどけしや	澤田蔦恵
	鯉幟風なきときの脹れっ面	塩川友艸
【佳作】	掘りたての筍土の香も売れり	塩川友艸
	春愁てふ病気ではない病気にて	塩川友艸
	桃ありてむかしの姉妹稚児の椀	柴田真一
	耳あれば目ざときものよつなぎ鯉	柴田真一
【佳作】	霾るやいたずら小僧が泣き面へ	柴田真一
	妻にまだ言へぬ一事や傘雨の忌	清水呑舟
	バリカンと父のげんこつ昭和の日	清水呑舟
【佳作】	街薄暑太き二の腕あふれでて	下嶋四万歩
	面子して面子をつぶす父の日よ	下嶋四万歩
	たまさかに夢盛る鮓の廻りくる	下嶋四万歩
【佳作】	その筋に勝る紋紋蛇出づる	壽命秀次
	柄になく照れて下向く蟾蜍	壽命秀次
	覗くかな増へもせづのに冷徳利	壽命秀次
	百歳に王手の老母春眠す	白井道義
	老いてより自給自足や花大根	白井道義
	これからもいろんな涙拭くだろうハンカチ	鈴木和枝
	筍飯のタケノコ拾って昔も拾って	鈴木和枝
【佳作】	聞かないでおこう鍬傷のじゃが芋	鈴木和枝
	目覚めると鏡見ながら髪洗ふ	鈴木哲也
	蜜豆や風が通りて涼しくて	鈴木哲也
【佳作】	少しでもぜいたく気分鮓を食べ	鈴木哲也
	雛荒しいの一番にあの子ン家	鈴木みのり
	教会にわけのしんのす持込禁止	鈴木みのり
【佳作】	龍天に登る胃薬飲んでから	鈴木みのり
【佳作】	行く春の耳に髭あり目に濁り	高須峰生
	花見酒酔うてみちのく拝むなり	高須峰生
	春の宿仕事してゐる夢の中	高須峰生
	選挙後親しさ消えて夏の霧	高田敏男
	デパートに並ぶ勇姿や兜虫	高田敏男
【佳作】	世の中は泳ぎにくいと鯉のぼり	高田敏男
	遺恨なり原発所めく海市かな	高田菲路
【佳作】	涅槃図の裏側びしょびしょかも知れぬ	高田菲路
	防風堀おぼへし犬を誇りけり	高田菲路
	ビニル傘春の嵐に壊さるる	高橋マキコ
	新緑や樹齢八百年の楠	高橋マキコ
【佳作】	花選び悩む幸せ母の日よ	高橋マキコ
	津波など招いてくれるな汐まねき	高橋素子
【佳作】	角出せばでんでん虫は喜ばれ	高橋素子
	筍に倣ひあく抜き小糠風呂	高橋素子
	逝きし子の代りに泳ぎ鯉のぼり	田中章子
【佳作】	みちのくのあばれ鯰のいづこにぞ	田中章子
	青嵐山はむくむく怪獣に	田中章子
	花祭麗人の接待受ける	田中　勇
【佳作】	満開の桜に遊ばされるなり	田中　勇
	行く春や自転車で吟行したる	田中　勇

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

	野次馬は爺ゆずりかや春の火事	田中早苗
【佳作】	猿が手を挙げて横断万愚節	田中早苗
	「ふぐりって？」辞書で引くよと入学児	田中早苗
	受験子の日毎に増える守り札	谷むつみ
【佳作】	百円の店に群がる春の昼	谷むつみ
	上司より増しな車の新社員	谷むつみ
	六法を枕に憲法記念の日	種谷良二
	母の日の母の顔の絵ピカソ風	種谷良二
【佳作】	政治家の軽き言葉や柳絮飛ぶ	種谷良二
	君の名はとたづねてみたい春ショール	田村米生
	豌豆のめんだうくさい実剥きかな	田村米生
	花見山見えぬ津波に立ち向かい	丹治芳樹
	唐人が櫂を休めし春の壱岐	丹治芳樹
	無事と言ふ唯それだけの春愁ふ	飛田正勝
【佳作】	長命の性持て余す日永かな	飛田正勝
	父の日や淋しくないと言えば嘘	飛田正勝
	紫陽花の活けられてより二変化	永島董玉
	金色の微塵をはなつ麦車	永島董玉
【佳作】	ラムネ玉取つてくれろとせがまれて	永島董玉
	屋根の上の猫を嗤って鯉のぼり	西をさむ
【佳作】	夕暮のだらけきったる鯉のぼり	西をさむ
	父さんの釣られ一家の鯉のぼり	西をさむ
【佳作】	セシウムのおぼろとなりて忘れじほ	原田　曄
	花の中小枝咥へて鴉ゐる	原田　曄
	春愁地震原発火事津波	原田　曄
	着ぶくれて習ひ始めのフラダンス	ひがし愛
【佳作】	三文の徳のチラシや明易し	ひがし愛
	孫よりも尻尾振る爺子供の日	ひがし愛
【佳作】	花よりも渋滞疲れ吉野山	彦阪義久
	仏様甘茶プールに立ち尽くす	彦阪義久
	明らかに疲れの見える子供の日	彦阪義久
	囀に鴉合の手入れてをり	久松久子
【佳作】	鶯に負けるなマリアカラスの裔	久松久子
	蟇土下座してゐる御陵道	久松久子
	口閉じること許されず鯉のぼり	日根野聖子
【佳作】	復興の槌音を聴く草若葉	日根野聖子
	それぞれの宴を浮かべ花筵	日根野聖子
	ゴールデンウィークの我遊び下手	広瀬雅幸
【佳作】	勝ち負けに拘りはなし菖蒲風呂	広瀬雅幸
	茶を摘むや原始共同体のごと	広瀬雅幸
【佳作】	丸暗記強ひをる塾の新学期	藤岡蒼樹
	給料の前の独り身シャボン玉	藤岡蒼樹
	即席麺朝寝の顔の未だ覚めず	藤岡蒼樹
	こいのぼりあーんとあけたままの口	藤森荘吉
	日本中みんな良い子だ子供の日	藤森荘吉
	風邪の神二人平等にしなくても	藤原セツ子
	老々の生命たしかめ寒の明	藤原セツ子
【佳作】	遠き日の母の色ともアネモネは	藤原セツ子
	春眠の窓を振わす猫盛ん	古野セキヱ
【佳作】	猪が筍狩りに勢を出し	古野セキヱ
	揺れるのは地震ばかりと言い切れず	古野セキヱ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

今月の特選句・秀逸句」　／　「今月の滑稽句」

	種袋どれにも少しづつ残り	前川敏夫
	てふてふと一筆書きに蝶飛べり	前川敏夫
	うちの子はチワワ三匹子供の日	前　九疑
	柏餅老妻と食ふ子供の日	前　九疑
	怖いもの地震雷大津波	松尾軍治
【佳作】	妻一人無罪信じぬ立夏かな	松尾軍治
	亀の子やもしもし亀よ亀さんよ	松尾軍治
【佳作】	セシウムもヨウ素も舞ふか春の空	丸山紘一
	春爛漫古里なほも人見えず	丸山紘一
	青葉ごと老大國の若大将	丸山紘一
	伊予柑に爪立て負けとはこれ如何に	三塚不二
【佳作】	待ちわびし背が伸び始め茗荷の子	三塚不二
	目元美人よ年不詳の茶摘み女は	三塚不二
	エプロンを広げ受けてる花吹雪	三橋一笑
	おむすびを一番喜ぶ母と花	三橋一笑
【佳作】	買い出しの言葉復活大地震	三橋一笑
	野間馬のどこからが口春の草	村上美和
	メタボほど褒められている鯉幟	村上美和
	その笑顔時には不気味濃あぢさゐ	百千草
	青嵐かけこみ患者の列につく	百千草
【佳作】	猫の子の親も欲しがる離乳食	森岡香代子
	かゆみ技いきなり仕事の初蚊かな	森岡香代子
	花びらを追ひかけ手足のもつれたり	森岡香代子
	てふてふが打々発止と舞う二匹	森　要
	呑ん平は春花秋冬酒が季語	森　要
【佳作】	武者人形買ってやれずに兜脱ぐ	森　要
	充電が放電となる大朝寝	守屋八郎
	教室へ蛙の目指す目借時	守屋八郎
	春昼や猫を調教伏せとお手	守屋八郎
【佳作】	春の水余り放流ダムのムダ	八木　健
	少子化よ今シーズンの筍は	八木　健
	サツキツツジの季節はいつだつけ	八木　健
	太陽を核に据へたるしゃぼん玉	柳　紅生
	父の日や予定はなべて妻次第	柳　紅生
	俳論も語る人無し桜散る	柳澤京子
	地震去りて植田鎮まる澄みにけり	柳澤京子
【佳作】	一期一会テントの風呂は子供の日	柳澤京子
【佳作】	竹の子の十二単を召されをり	山下正純
	玉椿落つまだ白きうちにかな	山下正純
	歌声の中に麗らかどこかしこ	山下正純
【佳作】	麦笛もいいが麦酒はもつといい	山本あかね
【佳作】	母の日や母が一番忙しき	山本あかね
	夏来たる見よや女の底力	山本あかね
	ねじれ咲くなり仏壇の花樒	山本けい子
	鯉のぼり風のおかげでよく泳ぐ	山本けい子
【佳作】	鬼ごつこさくら吹雪も追ひかける	山本けい子
【佳作】	蝙蝠ずとんで噂のもつ料理　？	山本　賜
	河鹿だつた野菜畑の土塊	山本　賜
【佳作】	鷺草のサギひしめいてをりにけり	山本　賜
	節電にほっと夜桜ほくそ笑む	横山喜三郎
	乙女らの更にぎりぎり耐暑法	横山喜三郎
【佳作】	みちのくは瓦礫の山ぞ初燕	渡辺さだを
	嗚咽するタカラジェンヌや桜咲き	渡辺さだを
	メーデーの鉢巻外しピクニック	渡辺さだを

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。